学校だより

～ ひびきあう心　かがやく笑顔　ふれあいの丘　斎藤分 ～

令和４年　８月　３０日　　９月号

横浜市立斎藤分小学校　校　長　　黒木　健

～ 漢字学習へのヒント ～

校長　黒木　健

厳しい残暑が続いておりますが、本校保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。本日から夏休み明けの学習が始まり、子どもたちの元気な声が、また学校に戻ってきました。子どもたちが、学校での生活のリズムを早く取り戻せるよう、全力で支援をして参ります。

さて、今月の学校だよりですが、「漢字学習」にスポットを当て、隣国中国での学校現場における漢字教育の実際と比較をしながら、話を進めていきたいと思います。文部科学省が定める現行の学習指導要領において、小学校 6 年間で学習しなければならない漢字の字数は、1 年生で 80 字、2 年生で 160 字、3 年生で 200 字、4 年生で 202 字、5 年生で 193 字、6 年生で 191 字の合計 1026 字となっており、その後、中学校 3 年間で 1110 字を積み上げ、義務教育終了時までに常用漢字 2136 字を習得することと定められています。また学校での学習においては、テストなどで漢字が読めて書ければそれで良いということではなく、文章の中で正しく適切に使えることを意図し、指導することとしています。

では、日本語のように漢字以外の「ひらがな」や「カタカナ」といった文字のない隣国中国では、小学校 6 年間でどの程度の字数の漢字を学習するのでしょうか。結論から言いますと、その数はおよそ 3000 字にも上ります。しかも、その内のおよそ 1800 字程を小学校 1・2 年生で習得するというのですからさらに驚きです。一般的に低学年では、漢字を 3 つの段階に分けて指導を行います。字数が多い順に、①「認字（読めて発音ができて且つ意味の分かる字)」、②「写字（読めて書くことのできる字)」、そして③「査字（何となくではあるものの意味や発音が推測できる字)」となっています。「認字」は、子どもたちが習得すべき基本的な漢字であり、「写字」は、「認字」の中で書けるようになるまで習得すべき漢字とされています。その内訳は、1 年生で、「認字」736 字、「写字」358 字、「査字」269 字の合計で 1363 字となっています。ただし、「認字」と「写字」は、重複しているものが多いため、その数は実際のところ合計で 1000 字弱程です。そして 2 年生でも、1000 字弱程の漢字を同様の方法で学習します。驚くべきことは、1 年生が「読めて発音ができて且つ意味の分かるようになるべき漢字」である「認字」だけでも 736 字、2 年生ではそれが 852 字もあり、6 年間で学習すべき漢字を 3000 字程とすると、1・2 年生の時点で、その 53%程を指導してしまうというその前倒し率の高さにあります。

そして学年が上がるにつれて、この 3 つの段階に分けた指導法にも変化が現れるというのもまた興味深い点です。そこには、低学年では「査字」であったものが中・高学年になると、それが「認字」や「写字」に格上げされ、低学年で前倒しして学習した漢字を、続く学年でも継続して学習し、漢字に対する知識をより確実なものにしていこうとする指導上の意図を感じることができます。また、3 年生以降では「査字」の設定がなくなる分、「認字」よりも「写字」の割合が多くなる傾向があります。つまり、読める漢字を少しずつ増やしながら、低学年で読んだり調べたりして、これまでに慣れ親しんできた漢字を、徐々に書けるようにしていこうとする指導法へのシフトと言ってもいいでしょう。

今回この話題を取り上げたのは、漢字学習一つをとっても、様々な指導法や学習法があり、それを知るだけでも、そこに今後の漢字学習をより確かなものにしていくための「ヒント」を見出すことができるのではないかと思ったからに他なりません。今回お話させていただいたようなことを気持ちの上に少し乗せるだけでも、これまでとは異なった漢字学習に対する新たな見方や考え方が、お子様の中に芽生えてくるかもしれません。ご家庭でも話題の一つにしていただけますと嬉しい限りです。

【参考文献】　「中国の漢字教育 ～小学校 1・2 年で 1800 字を学ぶ子どもたち～」　加藤幸次著　2011 年